

2026

しがの生協

No.205

TOPICS
トピックス

防災減災学習会

『防災減災、災害時のごはんづくり』

日時:2026年3月17日(火)

場所:大津市平野コミュニティセンター

主催:滋賀県生協連 後援:滋賀県



「あんなができることを分相して選
くしまわらないようにしておく。」

「とき」は、「いつも」何をしているかで決まる。
ことをする防災ではなく、「いつも」の暮らしを
「ものとき」にも使えるようにしておく。

日常と非常時の差をできるだけ小さくすること。
それがフェーズフリーという防災です。



地震や災害の備え
は大丈夫ですか？

今、私たちができるこ
とは？

何をそなえればいい？

避難する時は、何を持って、
どこへ逃げればいい？

日頃から、防災や災害時に役に
立つ食事づくり、防災グッズの準備
を行い、災害の被害を最小限に抑える
準備を行っておくことが大切です。

災害時、まずは自分のいのちは自分で守る
ことが一番重要！！

防災・減災学習報告

『防災減災、災害時の
ごはんづくり』
～ 私たちができること ～

滋賀県健康医療福祉部
健康危機管理課
淡野 睦さん
生活衛生課
栗原 磨美さん



能登半島地震発生直後、避難所のトイレ環境や段ボールベッド、自衛隊による入浴支援など厳しい状況の支援を報告いただきました。また、冬期の発災によりノロウイルス胃腸炎、インフルエンザ、新型コロナなどの感染症の増加、高齢者には食欲不振やトイレ我慢、塩分過多による脱水、肺炎など医療関連死も多く見られたとのこと。ライフライン制限下での感染症・食中毒予防の重要性を示されました。

こくみん共済COOP
滋賀推進本部
古賀 日向子さん



大規模災害時には、行政や外部の支援はすぐには届きません。3日～1週間ほどは、自分たちで何とかしなければなりません。そのため日頃からの備えが欠かせません。今回、簡易トイレや防災グッズ30点が入った防災バッグ、水のいらないシャンプー、多機能寝袋など、非常時に役立つ用品をご紹介いただきました。まずは「命を守ること」。それが復旧・復興という未来へ進むための第一歩とお話しいただきました。

3月17日(火)大津市平野コミュニティセンターで防災をテーマにした学習会を開きました。滋賀県の担当者からは、災害時の避難所や避難先で気をつけたい感染症や食中毒予防について学び、防災士からは、水道や電気・ガスの使用が限られる中でも工夫してできるポリ袋調理方法や、日頃の備えの大切さを学びました。こくみん共済COOPによる防災グッズの展示もあり、実際に手に取りながら備えを考える機会になりました。住宅生協からは災害で電気・ガス・水道が止まった際の自宅での注意点を示した資料をお知らせしました。

日本防災士会 滋賀県支部
森田 紀美さん 加藤 由利加さん
三露 晶子さん 林 由紀子さん

災害時にはケガなどで、家庭での調理が困難なこともあるため、日頃から家族みんなでできることを分担し、「もしものとき」に備えることが大切です。特別な準備ではなく、普段の暮らしを非常時にも活かし、日常との差を小さくしておくことが重要だと伝えられました。また、災害時には電気・ガス・水道が止まる場合があり、特に水の節約は欠かせません。ポリ袋調理を知っていれば、いつもの食材で誰でも簡単に調理ができ、その方法の紹介と試食が行われました。



大きな地震や集中豪雨など自然災害は、私たちの力だけで防ぐことはできません。しかし、日頃からの備えによって被害を減らすことはできます。まずは「自分にできること」「家族で取り組めること」を知り、いざという時に落ち着いて行動できるよう準備しておきたいものです。日常の中で少しずつ備えを積み重ねることが、安心につながります。災害時、まずは自分の命は自分で守れるようにしていきましょう。

みんなの防災
(こくみん共済coop)



3.1 ビキニデーに参加しました

ことし3月1日は第72回ビキニデーにあたり、滋賀県生協連から2名が参加しました。

1954年3月1日、ビキニ環礁での水爆実験により、第五福竜丸の乗組員やマーシャル諸島の人びとが被ばくしました。

当日は、焼津駅から第五福竜丸の無線長 久保山愛吉さんを偲ぶ墓前祭が行われる弘徳院まで行進し、墓前で祈りを捧げました。その後、大井川文化会館ミュージコでのビキニデー集会には約1,200名が参加し、核兵器廃絶に向けた運動を広げていくための呼びかけが行われました。

平和への願いを共有する人々が集う場に参加したことで、平和活動への関心をいっそう深める機会となりました。被ばく者の高齢化が進む中、高校生（エバーグリーン藤枝）による「愛吉すずのばら」の朗読と学内での平和活動報告があり、少しずつ次世代に受け継がれていっていると実感しました。



墓参行進



久保山愛吉さん墓参



ビキニ集会

消費者問題学習講演会Ⅱを開催しました

3月7日（土）、キラリエ草津にて滋賀県消費生活センターと消費者ネット・しがの共催により、日本アフィリエイト協議会代表・笠井北斗氏を講師に迎え、「悪質なネット広告（ウソ広告）の見分け方、教えます」をテーマにセミナーを開催しました。

当日は、日本のネット広告の現状や、SNS・検索サイト・動画サイト・アプリなどデジタルプラットフォーム上で表示される広告の特徴について学びました。

AIによって対象とされた消費者は、一人ひとりが広告内容を正しく読み取り、冷静に判断する力が求められています。特に30歳以下、60歳以上、美容や副業、投資に興味がある方などが狙われやすく、悪質な誇大広告（カウントダウンタイマー、テレビ番組や芸能人の絶賛など表示）には注意が必要です。

特定商取引法の表記で所在地や電話の確認、知らないサイトで買い物をする場合はスクリーンショットを撮るなど、十分に気を付けましょう。



近畿農政局と近畿地区生協府県連との懇談会を開催しました

2月25日（水）、近畿農政局と近畿地区生協府県連との懇談会を滋賀県で開催し、39名が参加しました。

近畿農政局からは食料安全保障と農業をめぐる現状として、稲作生産者の減少、環境問題への対応、スマート農業の推進、環境配慮型農産物の認定制度などの説明がありました。一方、奈良・和歌山・滋賀の各生協からは、生産者と協働して進めてきた「食と農」の取り組みを報告しました。また、農業政策を効果的に伝える方法や農業支援の取り組み、今後の課題について意見交換を行いました。

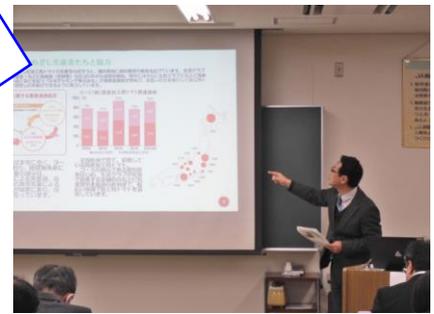
食料安全保障を考えるうえでは、多様な立場が集い議論する場が重要です。行政・生産・消費など幅広い団体とネットワークを持つ生協府県連の強みを生かし、今後の取り組みにつなげていきたいと考えています。



生活クラブ生協では、トマト産地を守るため、援農チームを結成して、毎年、定植や収穫作業のお手伝いをしています。



近畿農政局パネリスト



生活クラブ生協 山下専務

近畿地区生協府県連協議会に参加しました

3月13日、福井県民生協ハーツ恐竜にて、近畿各生協府県連、日本生協連関西支所、消費者支援機構関西、近畿ろうきんなど19名が集まり、各団体の取り組みや2026年度計画を共有しました。

「国際協同組合年」を踏まえた学習会・講演会や、協同組合同士の連携企画が紹介されたほか、防災・減災の学習、物価高・少子化への対応としての大学生支援や子育て企画など、社会課題に応じた取り組みも報告されました。

具体的には、大学生への食品セットの提供や漁業協同組合の協力による大学生協食堂での「シラス丼」企画、防災学習（HUG、VR体験、ポリ袋クッキング）、能登半島地震の被災地ボランティア活動、0歳児から楽しめる音楽会、生協店舗での障がい者アート展示や福祉施設製品のマルシェなど、多彩な地域活動が共有されました。



生活クラブ生活協同組合

「地域に開く」活動が広がる

びわ湖大橋取付道路に面した守山市水保町に本部センターを開設して3年が経ちました。「地域に開く」ことも目的として、様々な活動に取り組んでいます。

センター開所当初から、センターの駐車場で定期的に「生活クラブマルシェ」を開催しています。組合員をはじめ、どなたでも来ていただけるものです。回を重ねる毎に、来場者、出店者も増え、地域のみなさまにも喜んでいただける取り組みとなっています。また、昨年から2年続けて、速水小学校2年生が社会見学に来てくれるようになりました。「地域



に開く」活動が広がり、守山市で開催されている守山エコフェスタや、つがやまマルシェにブースを出させていただいています。

センターは、組合員が自由に集まり、やりたいことができる場所です。毎週火曜日は、100円ランチ会を開催していて、おおぜいの組合員やその子どもたちの居場所となっています。生産者交流会や料理教室など、さまざまな活動に取り組んでいます。

わたしたちの取り組みは、組合員だけではなく、地域のみなさまの参加も歓迎しています。SNSやチラシで広くお知らせをしています。守山市の広報で紹介していただく事もあります。わたしたちのセンターは、笑顔あふれる場所です。イベントなどのお知らせをご覧になられましたら、ぜひお越しください。

滋賀県勤労者共済生活協同組合

事務所を移転しました

滋賀県勤労者共済生活協同組合(こくみん共済coop 滋賀推進本部)は、事務所の移転が完了し、2月24日より新事務所にて業務を開始いたしました。

新事務所では、組合員の皆さまへのより良いサービス提供と、職員同士の連携強化を目的に“フリーアドレス制”を導入しました。職員がその日の業務内容や気分に合わせて自由に働く場所を選ぶ環境とすることで、日々異なる職員との交流が生まれ、部署を越えたコミュニケーションの活性化が期待されます。また、自ら業務に適した場所が選択できることで、モチベーションや生産性の向上にもつながると考えています。

今回の移転を新たな出発点とし、役職員一同、地域のみなさまにより信頼される共済生協を目指し、これまで以上に業務の充実とサービス向上に努めてまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

部署を超えた対話から
新しい価値が生まれる！



デスクにはパソコンのみ。
その日の仕事に合う場所を
選ぶだけ！

12/20(土)能登の炊き出しボランティア報告

輪島市マリントウンで行われた『輪島祭！おもちつき大会』に、大阪府生協連とともに参加し、たこ焼き・焼きそばを提供しました。会場では餅つきのほか、ステージや様々な模擬店、体験コーナーなど催しがあり、周辺仮設住宅などから多くの人に参加いただき、大変盛り上がりました。祭りは1日だけのものですが、参加者同士の交流を通じて、困難な状況の中でも笑顔を取り戻し、精神的な支えの場になっているように感じました。

能登半島地震から2年になります。しかし、能登の復旧・復興はまだ道半ばであり、息の長い支援活動が必要です。能登の現状を知り、被災された方々に寄り添うことは、多くの人々に継続的な支援を呼びかけるうえで重要です。また、南海トラフ地震への備えをどのように進めるべきかを考える機会としても大切だと思いました。



滋賀県消費者被害防止キャンペーンに参加 (消費者ネット・しがの活動参画)

近年、SNSやメールに送られてくる詐欺や代引き詐欺、ワンクリック詐欺、投資詐欺、ロマンス詐欺などの被害が増加しています。特に若者や高齢者が巻き込まれやすく、SNS上の誘い文句やインターネット広告を安易に信用してしまうケースが後を絶ちません。

11月20日(月)消費者被害防止キャンペーンの一環として、大手スーパー来店者を対象にパネル展示やチラシ配布を行い、被害を未然に防げるよう、具体的な手口や対策を紹介しました。実際に多い相談事例や、見抜くためのポイント、困ったときの相談窓口などを示しました。

今回の取り組みを通じて、デジタル社会を安全に利用するための意識向上、被害防止をすすめる機会にしました。